

時の人

第153回芥川賞に決まった

またよし 又吉 またよし
なおき 直樹 なおきさん



お笑いの世界で日々、しのぎを削る青年が、芥川賞作家になった。80年の賞の歴史に名を刻んだ異色のスターは、今後、話芸に加え、書き言葉による芸術でも闘っていく。

受賞作「火花」の語り手は若手のお笑い芸人。観衆を笑わせなければならぬ職業の厳しさと残酷さを、おかしみや悲しみを織り交せて描いた。

18歳のころ、頭に浮かんだ「壮大な物語」を原稿用紙に書いてみた。10枚ほどで力尽きてしまったが、その目を境に、世にある小説に込められた技法や作家の創意をありありと感じられる

よつになった。

常に本を持ち歩く「読書芸人」のコメントは、先達の作家への愛と敬意にあふれる。純文学作品の執筆に踏み切ったのは、西加奈子さんの「サラバ!」を読んで「テンションがめちゃくちゃ上がった」勢いに乗ったから。掲載した「文学界」2月号は史上初の増刷、単行本は64万部に達した。「小劇場でネタをやったつもりが、(テレビの)ゴールデン(タイム)に中継がつながれていた」と戸惑いを表現する。

「火花」の作中、主人公に先輩芸人が「美しい世界をいかに台なしにするか」を説く場面がある。書いてから、この言葉を反すつする。「美しいですねとたたえ合っているだけでは、いつかさびつく。壊した後にもっと面白く、美しい風景が広がると思う」

小説の自由さは「笑いだけでなく、どんな感情が湧き上がってもいい」と。東京都内で後輩芸人2人と暮らす。大阪府出身。35歳。

2015年7月17日 朝刊

①又吉さんが受賞した賞は何でしょうか。

[]

②受賞作「火花」で描いたのはどんなことでしょうか。

[]

③又吉さんは、小説の自由さをどのように考えていますか。

[]

年 組 名前